短　報

イトゲジゲジゴケモドキ *Heterodermia leucomelaena* (L.) Poelt の再発見について

川又　明徳 *

Rediscovery of *Heterodermia leucomelaena* (L.) Poelt

Kawamata Akinori

Abstract：*Heterodermia leucomelaena* (L.) Poelt is designated as an extinct species by the Ministry of the Environment. However It was discovered in the Omogo valley in 2004. So far, It has only been discovered from fallen trees and broken branches. But It was rediscovered on the trunk of growing cherry trees in 2023. It is possible that this species still grows in the Omogo Valley. This species has not yet become extinct from Japan.

キーワード：地衣類，ムカデゴケ科，絶滅種，再発見，面河渓
Key words：Lichen, Heterodermia, extinct species, rediscovery, Omogo valley

はじめに

イトゲジゲジゴケモドキ *Heterodermia leucomelaena* (L.) Poelt は，亜熱帯から熱帯地方に広く分布するが，日本国内では極めて稀とされているムカデゴケ科ゲジゲジゴケ属の地衣類である（吉村，1974）．同属のイトゲジゲジゴケ *Heterodermia boryi* (Fee) K.P.Singh & S.R.Singh とは外見上は非常に酷似しているが，イトゲジゲジゴケの裂片先端部は極端に内巻きしていることに対し，イトゲジゲジゴケモドキの裂片先端部は真直に伸びていることで形態的に区別することができる．

本種は黒川逍氏により和歌山県高野山から初めて報告された（Kurokawa, 1960）．その後国内からの報告がなく，環境庁（現：環境省）の定めた最初の植物版レッドリストにおいて絶滅種に指定された（環境庁, 1997）．しかし，筆者は 2004 年に上浮穴郡久万高原町面河渓にて台風によって倒れたモミの枝から本種を採集し，吉村庸氏と共に報告した（川又・吉村，2007）．また，2012 年に日本地衣学会主催の面河渓で開催された第 11 回日本地衣学会観察会においても本種の発見を報告している（原田・川又・松本, 2018）．なお, 現在も環境省レッドリスト（環境省，2020）では絶滅種として扱われている．

発見の経緯

面河渓では2004年と2012年に本種が採集されている．その採集地の近くには国民宿舎面河（鉄筋コンクリート 5 階建）が建てられていたが，2016 年 3 月に閉館となりその後取り壊され，2023 年にその跡地に観光施設（木造平家建）が建設された．採集地周辺の日照条件や風通し等，生育環境の変化を確認するため同年 9 月 4 日に面河渓を訪れた．観光施設の奥に位置する駐車場にて（図 1）生育環境の変化を確認していた際，本種を発見した．なお，生育環境の変化としては，観光施設が小規模かつ平屋になったことで，日照条件と風通し共に国民宿舎面河が建っている頃より良くなった印象を受けた．

結　果

観光施設の奥に位置する駐車場において（図 1），本種は植栽されている胸高直径約 30cm のサクラ（種名不明）の地上から約 1.5m の幹上に着生していた．着生状況としては，幹上に着生している蘚苔類上の約 10cm 四方の範囲に拡がる様に生育していた（図 2）．生育量は過去に採集されたものとほぼ同じ程度であった．その他幹上には *Cetrelia nuda* トコブシゴケ，*Parmelia squarrosa* カラクサゴケ，*Phaeophyscia limbate* クロウラムカデゴケ，*Lepraria lobificans* レプラゴケ等の地衣類が着生していた．なお，採集地の標高は約 700m，2006 年と 2012 年に日本地衣学会による観察会では，面河渓から 46 種の地衣類が確認されている．

* 愛媛県総合科学博物館　学芸課　自然研究グループ
Nature reserach group, Curatorial Division, Ehime Prefectural Science Museum

収　集

着生基物であるサクラは樹形の骨格を形成している上部の枝の腐朽化が進んでいたため（図 3），近い将来に枝折れの恐れがあるため伐採されることが予想できた．そこで現地近くにある面河山岳博物館と連絡をとり，愛媛森林管理署との確認を経て伐採された当該樹木（図 4）から 2023 年 10 月 19 日に本種を見つけ出し採集した（図 5）．なお，採集した本種は標本として愛媛県総合科学博物館に収蔵している（図 6・7）．

考　察

本種のこれまでの発見例は，2004 年は倒木の枝（川又・吉村，2007），2012 年は落枝（原田・川又・松本，2018）からである．今回の再発見は，まだ生育中の自立した樹木からの発見である．地衣類をはじめとする樹木の幹や枝に着生する着生生物は，着生基物である樹木が倒木または，その枝が落枝となった場合，元の生育環境とは日照条件や風通し等が大きく変化するため，時間とともに枯死または朽ち果てることとなる．本種は環境庁（現：環境省）の定めた植物版レッドリスト（環境庁，1997）で絶滅種と判定を受けて以来，生育中の樹木の幹という安定した場所での生育が確認された例はないため，今回の再発見は貴重だと考えられる．また，これまで倒木や落枝上から採集された標本も本種が面河渓に生育していたことを証明するものであるが，今回の再発見における着生している状況を撮影した写真記録は，本種がまだ国内から絶滅していないことを証明する証拠となり得ると考えられる．しかし，本種が着生したサクラは伐採されたため，現時点で生育中の姿を確認することはできなくなった．ただ，これまでの発見例を考慮すると本種はまだ面河渓に生育していると考えられる．

謝　辞

植栽樹木の伐採について情報等を提供して頂いた面河山岳博物館矢野真志氏，安田昂平氏にこの場を借りて，心より厚く御礼申し上げます．

引用文献

川又明徳・吉村庸，2007：分布資料（18）．イトゲジゲジゴケモドキ *Heterodermia leucomelaena*．Lichenology，Vol.6 No.1，p.15-19.

環境省, 2020：環境省レッドリスト 2020 の公表について．https://www.env.go.jp/press/107905.html（2024.4.30 参照）．

環境省，1997：植物版レッドリストの作成について．https://www.env.go.jp/press/982.html（2024.5.21 参照）．

Kurokawa S, 1960：Anaptychiae (Lichens) and their allies of Japan (5). J.Jpn.Bot.35：p.353-358.

原田浩・川又明徳・松本達雄，2018：愛媛県面河渓の地衣類．―日本地衣学会第 5 回・11 回観察会（2006 年 9 月，2012 年 10 月）採集記録―．Lichenology，Vol.17 No.1，p.13-15.

吉村庸，1974：原色日本地衣植物図鑑．保育社．PL48 ＋ 349pp.

図１　清流面河の奥に位置する駐車場

図２　着生しているイトゲジゲジゴケモドキ

図３　腐朽化の進むサクラ

図４　伐採されたサクラ

図５　伐採されたサクラに着生していたイトゲジゲジゴケモドキ

図６　収蔵されているイトゲジゲジゴケモドキ

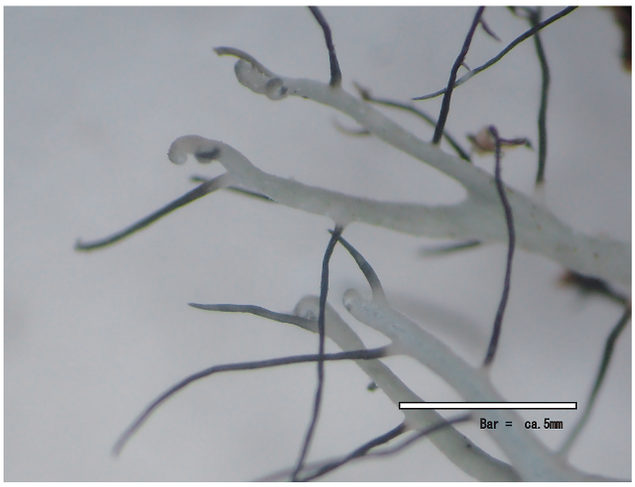

図７　先端部は極端に内巻きしない